



診察室における言葉の玉手箱 ～第11回～

川崎幸クリニック院長
杉山 孝博

18. 症状は、身体に何か変化が起こっているという警報ベルと同時に、身体を治す大事な仕組みの一つでもある

「子供が幼稚園から帰ってきたとき、元気がなかったので体温を測りましたら、39.5℃もありました。夜分申し訳ありませんが、診察をお願いします」

「昼間は元気だったのですね。水分は取れていますか。それでは診察させてもらいましょう」

「幼稚園では、変わった様子もなく遊んでいたようです。水分はとれています。高熱が急にでてきたので、肺炎でも起こしているのではないかと心配しています」

「喉が赤くなっていますが、扁桃腺ははれていません。はしかのような発疹もありません。聴診では、気管支炎や肺炎で聞かれる雑音はありません。症状と時期からみて、インフルエンザでもないと思われますので、風邪と考えてよいと思います」

「安心しました。解熱剤や抗生物質を出していただけますか」

「風邪の初期はウイルスが原因ですから、抗生物質は効きません。また、むやみに抗生物質は使わないほうがよいと思います。2～3日後も熱が下がらなかつたり色のついた痰が出てきた場合には使ったほうがよいと思いますが。解熱剤ですが、水分が取れていて元気ですから、解熱剤も使わなくてもよいと思います」

「抗生物質はわかりましたが、解熱剤を使わなくては熱が下がらないのではないのでしょうか」

「解熱剤で熱を下げても、風邪のウイルスを殺すわけではありません。そもそも、**発熱、咳、痛みなどの症状は、身体に何か変化が起こっているという警報ベルと同時に、身体を治す大事な仕組みの一つでもあるのですよ**」

「それはどういうことですか」

「39～40℃になりますと、病気を起こす細菌やウイルスは繁殖できなくなります。局所的な発熱もその部位を酸性にさせて細菌の繁殖を抑え、白血球がもつ酵素の働きを活発にして抵抗力を高める仕組みでもあるのです。お子さんのように、子供はすぐ高熱を出しますが、様々な細菌やウイルスに遭遇することで免疫を獲得する機会の少ない子供にとって、進入した細菌などをまず高熱を出すことによって抑え、その上で免疫の仕組みにより排除するのです。解熱剤を安易に使うことはその仕組みを壊すことにもなりかねません。咳も気管や気管支にたまった異物を排除する仕組みです。在宅ケアを受けている患者さんで、咳やむせることのできるうちはまだ安心ですが、咳をすることができなくなったら、吸引機を使って家族が痰を吸引しなければならなくなります。先天性無痛症という特殊な病気があります。痛みの感覚をつかさどる脳の一部に生まれつきの異常があるため、ナイフで身体を傷つけても骨折しても痛みを感じません。痛みによる学習ができないので危険なことを平気でするし、重大な障害が見逃されます。20歳までは生きられないといわれています」

(つづき)





診察室における言葉の玉手箱 ～第11回（つづき）～

「なければよい、軽くなればよいと思える症状も、重要な意味があるのですね。でも、解熱剤、咳止め、鎮痛剤など、症状を抑える薬がたくさん使われているのではないですか」

「高熱による痙攣や脱水、咳が続くことによる消耗、悪循環形成や不眠など、痛みによる苦痛や活動できないなどの生活障害などのように、症状による困った問題が起こるようであれば、症状を抑える薬を使うことは必要です。その場合も、症状をもたらす原因を確認しながらでないとは危険な場合があります。肺炎があるのに解熱剤のみで済ましたり、急性虫垂炎で腹痛を訴える患者に対して強力な鎮痛剤を注射して痛みを抑えてしましますとひどい腹膜炎をおこしてしまうことになりかねません。症状が我慢できる程度であれば、我慢しても問題はありません」

「でも、うちの子供の場合、39.5℃も熱が出ているのをそのままにしておくと、脳に障害を起こすことはありませんか」

「発熱の原因が脳脊髄膜炎や肺炎であると問題ですが、風邪による発熱であればたとえ40℃でも問題ありません。20数年前まで、アミノピリンという鎮痛解熱剤がよく使われていましたが、今は使われていません。それは、アミノピリンが胃の中で亜硝酸と反応してジメチルニトロソアミンという発がん物質を作る恐れがあると指摘されたからです。また、30年以上前に、筋短縮症が大きな社会問題になりましたが、それは風邪などのため安易に筋肉注射を行ったためでした。対症療法に使われる薬や処置も副作用を起こすこともあることを知っておいたほうがよいでしょう」

「夜分にも関わらず、いろいろなことを教えていただきましてありがとうございました。安心して様子を見ていくことができます。子供の風邪の治りが悪ければ、また受診させていただきますので、そのときはよろしくお願いします」

